

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構運営委員会（第 51 回）議事要旨

1 日 時 平成 29 年 12 月 19 日（火）15：00～17：00

2 場 所 学術総合センター 1112 会議室

3 出席者 池田、川嶋、高橋、武市、竹中、舘、土屋、東福寺、新田、二宮、ビール、藤垣、吉川の各運営委員
（新井、石井、大竹、金子、菊池、酒井、山本の各運営委員は委任状提出）
福田機構長、岡本理事、森理事、小笠原監事、柴監事、手島審議役、内藤管理部長、吉田調査役、中嶋調査役 ほか機構関係者

4 運営委員会（第 50 回）議事要旨について

平成 29 年 6 月 23 日に開催された運営委員会（第 50 回）議事要旨（案）が確認され、確定版として了承された。

5 議 事

《審議事項》

（1）教員の選考等について

専任教員候補者及び特任教員候補者の選考、特任教員の雇用更新について審議が行われ、原案どおり承認された。主な意見は以下のとおり。

- 専任教員と特任教員の候補者 4 人は全員が 60 代男性であり、ダイバーシティに乏しいように思われる。
- 専任教員の公募要件に年齢の記載はない。男女共同参画に基づいて公募すると記載しているが、適任者が結果的に男性だったものである。教員の選考に当たっては今後も多様性の確保に配慮したい。

（2）役職員退職手当規則の改正について

国家公務員退職手当法の改正に伴う、機構の役職員退職手当規則の改正案について審議が行われ、原案どおり承認された。

（3）給与規則等の改正について

一般職の職員の給与に関する法律の改正に伴う機構の役職員給与規則等の改正案について審議が行われ、原案どおり承認された。

《報告事項》

（1）各種委員会委員等の選考について

①大学機関別認証評価委員会委員、②学位審査会専門委員の選考について、会長一任による追加発令があったことの報告があった。

(2) 国立大学施設支援センターの事業について

平成 29 年度国立大学施設支援センターの事業について、12 月現在の進捗状況の報告があった。

(3) 学位授与事業について

平成 29 年度学位授与事業の状況について報告があった。

(4) 評価事業について

平成 29 年度評価事業の状況について報告があった。主な意見は以下のとおり。

- 大学を卒業した者の能力開発について政府等で話題になっているが、機構の認証評価ではそのような点は評価しているのか。
- 認証評価は主に学校教育法を根拠としているため、基本的には学校の教育として実施されているものを評価する。ただし、大学機関別認証評価では、社会貢献の度合いについて教育内容に関わるものはある程度評価している。しかし対象校の自己評価に基づいて評価を行うため、全ての対象校について網羅的に評価しているものではない。また、大学機関別の選択評価及び高等専門学校機関別の選択的評価事項に係る評価では、地域貢献について非正規学生に対する教育サービスの観点で評価しているが、これも対象校からの申請によるため、網羅的ではない。

(5) 質保証連携について

平成 29 年度質保証連携の状況について報告があった。主な意見は以下のとおり。

- 11 月 6 日と 1 月 29 日の内部質保証ワークショップについて報告はないか。
- 現在は 11 月に実施したワークショップのアンケート等を取りまとめ、1 月の開催に向けて準備をしているところ。3 月の会議では報告できる予定である。
- キャンパス・アジアについて、前回のモニタリングでの反省点や改善点が、新しいプログラムに反映されていないという思いはあるか。
- プログラムの採択校が集まる会議等ではキャンパス・アジアの成果を発信しているが、これから先どのように成果を活かしていくかは課題として残っている。
- 大学ポートレートについて、公立大学の参加割合が私立大学と比べ 10 ポイントほど低い要因は何か。
- 大学ポートレートの運用管理は機構で行っているが、システムの保守費用は国公立大学の負担となっている。公立大学や短期大学では予算要求に苦慮していると聞いており、それが要因の一つではないかと考えている。公立大学に対しては引き続き広報を図っていきたい。
- 公立短期大学協会では、大学ポートレートの導入時に経費が問題になった経緯がある。今後も配慮してもらいたい。
- 大学ポートレートの状況について補足すると、国公立大学の国際発信については来年 8 月から一斉公開を予定している。また、来年度のシステム更新では、これまで指摘いただいた機能の充実を図っている。本委員会での指摘を今後の作業に反映できればよい。
- 最新の情報が高校生に提供されているのかという点は十分とは言えない。更新の状況が表示さ

れる仕組みにするなど、システム側の対応はどのようになっているか。

- 大学側の更新にかかっている。例えば3ポリシーについて、各大学で定めていても大学ポートレートには反映されていない場合がある。大学ポートレートへの反映について留意いただきたいというメッセージを、大学側に送る必要がある。
- 情報が更新されないことで、大学側の誠実さに対する不信感が高校生側に芽生えてしまうと、情報提供はかえって逆効果になるのではないかという危機感がある。更新の状況が表示され、情報提供に熱心な大学とそうでない大学とが高校生に伝わることで学生募集に影響するなど、競争的な環境に置いて更新してもらう必要があるのではないか。
- 私立大学のポートレートでは各大学で更新した情報が入口で表示されるシステムになっているが、国公立大学の方はまだそのような機能はない。大学の方々に協力いただけるようにしていきたい。
- 機関別認証評価に大学ポートレートのデータを活用することが課題ということだが、認証評価のみに活用するのか。また、どのような形で活用するのかイメージを伺いたい。
- 認証評価への活用は中教審の議論で示されたものである。認証評価機関連絡協議会から求められたデータは、これまでに大学ポートレートで収集したデータでは不十分であり、新たなデータベースの項目を作って収集しなければならない状況である。

それとは別に、現在、国立大学向けに相互のデータを共有して大学の運営等に活用するためのツールを提供できるよう準備している。既に国立大学には、大学ポートレートのデータのうち学校基本調査のデータを対象として、複数の大学間の比較プロファイルが行えるツールを6月に提供した。

- 国立大学向けに提供したものか。
- 6月のツール提供は、国立大学の担当窓口に対して行った。公立大学についても学校基本調査のデータはあるが、大学ポートレートへの参加が100%でない状況でどこまで提供を行って良いのかという問題がある。

6 その他

今回の運営委員会は、案件に応じて別途調整することとし、詳細については、後日事務局より連絡することとされた。

以上